

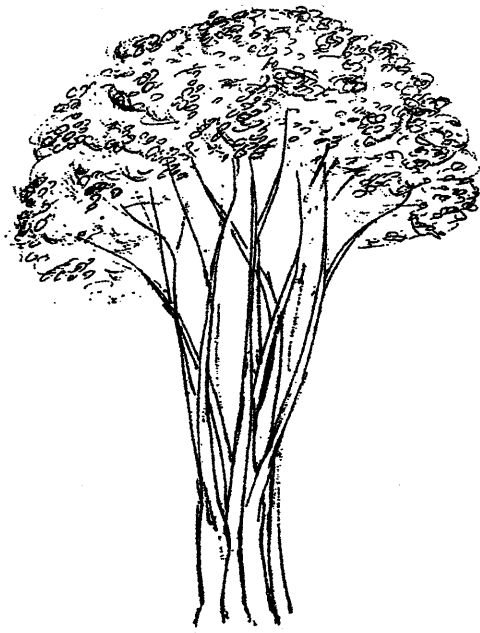
吾妻溪谷

# ハツ場ダム

2005. 7 No. 12

さらには  
現地の生活再建・待たなし!

利根川流域脱ダム宣言



…中絶…

この半世紀、ダム計画は川原湯など  
予定地に住む人たちの発展を奪って  
きた。そんな、精神的にも経済的に  
も過酷な暮らしを強いてきたことに  
対する補償は、なによりも先に、か  
つ充分にしなくてはならない。

そして、新しい川原湯の歴史を、  
可能なかぎり手助けする。それが群  
馬県と国の、これからの仕事である。  
川は流れているからこそ生きてい  
る。山は緑で覆われていてこそ意味  
がある。いまのハツ場ダムの工事現  
場を、私たちがその大切さを知り、  
自然をこれ以上、破壊することを中  
止した、記念碑としたい。 ■

「暮らしの手帖」17, 2005 夏号より

ハツ場ダムを考える会

首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

# ■ 現地は今... 4a3 ■

2005. 7. 30

## ■ 全水没地区

八ッ場の水没五地区という。川原湯、川原畑、林、横壁、長野原。このうち、全水没を宣告されているのが、温泉街のある川原湯と対岸の川原畑である。

かつては補償金目当ての人もいたし、故郷を捨てて第二の人生を目指す心積もりの人もいた。けれども、補償基準調印後、もう4年もたっている。今、全水没地区に住んでいるのは、この土地に残りたいと思っている人がほとんどだ。それだけに、川原湯の約70世帯、対岸の川原畑と合わせて約100世帯の住民にとって、代替地の交渉は切実だった。

## ■ 交渉の経過

国の代替地分譲プランを地元が最初に知らされたのは、八ッ場ダムを増額案が下流都県に提示された直後の2003年末のこと。久米宏がキャスターを務めていたニュースステーションは、住民が高額な代替地の価格に怒りをあらわにする光景を映し出した。

それから約1年半。難航した価格交渉は、さる4月30日に終了し、NHKはじめ各マスコミは、いっせいに交渉終了のニュースを流した。これで八ッ場ダム事業が一步進むと感じた人も多かったろう。

けれども分譲基準には、実は価格だけでなく、住民の将来の生活に関わるさまざまな問題が含まれている。造成スケジュールはどうなるのか？ 土地取得の条件は？ 防災ダムに囲まれた代替地で、果たして安全に暮らせるのか？

6月中旬、墓地通路を巡って協議はいったん中断。代替地の墓地は個人で買うのは仕方ないとしても、通路は一体誰が国から買うのか・・・？ 墓地以外にも、石垣、神社の石段など、村人が共有してきた大切な場所はいくつもあるが、「墓地の通路さえもお金がからむ」ことがクローズアップされ、交渉は暗礁に乗り上げた。

7月4日、国は、代替墓地の通路は国が町に無償貸与し、町有地とするという妥協案を出してきた。これだけで住民の将来不安が消えるわけではないのだが、墓地の通路以外、起業者の譲歩がないまま、交渉は大詰めを迎えた。

## ■ 採決ナシ

7月17日の晩、急遽、川原湯の総会が開かれることになった。出席者は全世帯の半分に満たなかったという。その日は連休中<sup>なかび</sup>日だったから、観光客相手の温泉街で参加者が少ないことは、最初からわかっていたはずだ。「執行部は今晚、分譲基準受け入れの意向」という噂は事前に流れていた。

「いつまでも交渉を続けても進展はない」と地区のダム対策委員長が言い、「価格が決まったからといって、すべて国まかせで町の再生ができるのか？」と反発の声が上がったものの、結局はなし崩し的に国の意向を受け入れることが決まった。

川原湯に続いて、20日には川原畑で交渉が終了した。どちらの地区でも、議論を尽くしたり、採決をとったりしたという話は聞かない。

## ▣ 代替地は法律で守られていない

交渉が終了すれば、調印式、住民への意向調査、申し込み手続き、そして来春には分譲開始式典開催、というのが、国が描く今後の予定である。

代替地はまだ完成していない。土地を買うときは、ふつう、周辺環境、利便性などを確かめるものだが、代替地計画では、できあがってから考える、というわけにいかない。意向調査とは、図面の上で、番号がふられた架空の土地を買う決断を迫られることなのだ。高額な土地売買がカタログ販売なみのお手軽さだが、完成した土地を見て、とても住む気になれない、と移転をためらう時は、キャンセル料はかからないのだろうか？

急峻な渓谷の中腹に無理をおして造る代替地は、地滑り不安と隣り合わせだ。川原湯温泉の場合、代替地に移転しても、ダムがなかなか完成しなければ、観光業は土木工事によって大きな損害を蒙ることになる。

土木技術者として公共事業の現場に携わってきた矢部俊介氏によれば、「〈公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱〉は、土地の権利を消滅させる上での補償だけを規定している。水没予定地の住民は、代替地を買わなければならないが、代替地の補償までの規定がないのは、法律的な欠陥」という。



## 最後の犠牲者を出さないために



1995年、地元は建設省に対して、一通の陳情書を提出している。

要旨 「公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱に精神補償を組み入れ、改正されたい」  
陳情書の回答（回答者：藤井建設省関東地方建設局長）より抜粋

「…公共事業に伴います損失補償につきましては、当委員会におきましても、財産権の損失補償基準を行うこと等を中心として、よりその改善を計っていくことを基本としていることで、精神補償を補償項目とすることにつきましては、非常に困難な状況でございます。」

長年、希望を打ち砕かれ、人間の尊厳を傷つけられた結果、水没予定地の人々は、無気力になり、外部に屈折した感情を抱くようになってしまった。53年前、国の一方的な通達で始まったダム計画は、最後の交渉でも、国が住民との合意形成に努めた形跡はない。

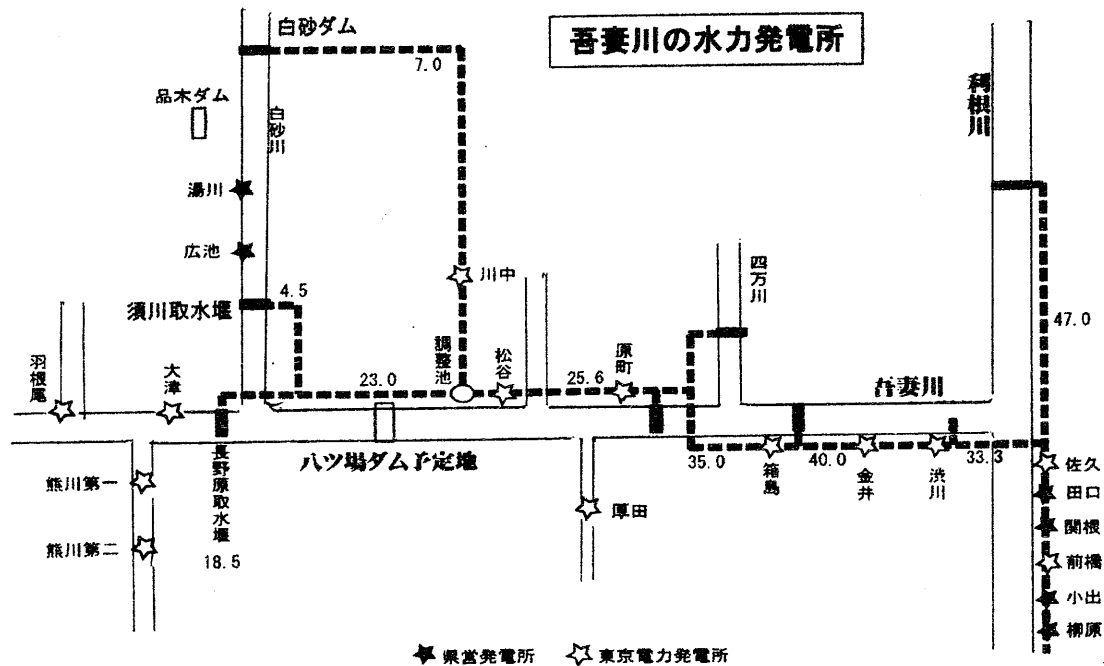
かつて八ッ場とともに、地元民のダム闘争が並び称された川辺川ダム（熊本県）は、下流の市民を中心とした反対運動が今、全国の注目を集めている。水没予定地の五木村では、住民がほとんど移転し、残った世帯の強制収用が焦点となっている。たとえダムが中止になったとしても、破壊された人々の生活は元には戻らない。八ッ場は遅きに逸したとはいえ、まだ何百人もの住民の生活の場がある。これ以上の犠牲を出さないために、ダム事業の見直しは早ければ早いほどよい。今ならギリギリ、まだ間に合う。（文責：清沢洋子）

# 東京電力・水力発電所への

吾妻川は大雨が降らない限り、いつも流量が乏しい川です。吾妻川の流量が少ない理由は水力発電所にあります。吾妻川には上流から下流まで、多くの水力発電所が張りつき、川に流れる水の大半が発電所への送水トンネルの中を流れます。発電に使った水は吾妻川にほとんど戻ることなく、下流側の発電所に順繰りに送水管で送られていきます。

ハッ場ダムに水を貯めるためには、この発電所への送水量を大幅に制限しなければなりません。しかし、水利権は先行のものが優先されますので、送水量を制限するためには、東京電力側に対して発電量の減少分について補償金を支払わなければなりません。ハッ場ダムの貯水による影響はダム湖周辺の発電所から利根川合流点の発電所まで及びますから、この減電補償の金額は非常に大きなものになります。

今回、宮ヶ瀬ダムの減電補償の例を参考にして、ハッ場ダムの貯水に伴う減電補償額を試算してみました。流量等のデータは国土交通省の情報開示資料を使用しました。



## (1) 計算結果

計算結果は別表（右頁）のとおりで、6発電所に対する減電補償額の合計は次の値になりました。

1945～54年の流量データを使うと	238億円
1955～64年の流量データを使うと	250億円
1965～74年の流量データを使うと	271億円
上記30年間の流量データを使うと	252億円

# 減電補償の試算

— (ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表)

このように、河川の流況によって、減電補償額に多少の差が生じます。実際にはダム完成前の過去10年間の流量データを使って減電額を計算することになっていますので、上記の数字とは異なりますが、250億円前後の金額になることは確実と考えられます。

## ハッ場ダム建設による東京電力(株)水力発電所への減電補償額の試算

発電所名	認可最大出力 (kW)	最大使用水量 (m <sup>3</sup> /秒)	1955-1964年	1965-1974年	1975-1984年	1955-1984年
			減電量 万kWh/年	減電量 万kWh/年	減電量 万kWh/年	減電量 万kWh/年
川中	14,600	7	439	982	1,393	938
松谷	25,400	26	8,324	8,499	8,703	8,509
原町	27,400	26	8,821	9,007	9,222	9,017
箱島	24,000	34	1,955	2,108	2,709	2,258
金井	14,200	40	983	1,060	1,362	1,135
渋川	6,800	40	471	508	652	544
計	112,400	—	20,993	22,165	24,042	22,400

### 計算の条件

- ① 国土交通省がハッ場ダム貯水池運用計算に用いた流量データおよび水力発電所への送水量データを使用(半旬別データ)。
- ② 発電所の残存耐用年数は、宮ヶ瀬ダムの場合の東電発電所と同じ19年、報酬率は0.032(東電の最新値)、発電単価は8円/kWhとする。
- ③ 各発電所の減電量を次のように計算する。
  - ★松谷、原町発電所:国土交通省が想定した水力発電所への送水量に基づいて計算。
  - ★川口発電所:国土交通省が想定した水力発電所への送水量の範囲で減電量が最も小さくなる条件で計算。
  - ★箱島、金井、渋川発電所:松谷・原町発電所からの送水量減少というマイナス分と、ハッ場ダムからの放流水を取水堰で取水することによるプラス分の両方を考慮して計算。

## (2) 今回<sup>α</sup>計算結果が意味すること

減電補償額の約250億円は非常に大きな金額です。現在のハッ場ダム建設費予算の約1年分に相当します(2005年度の予算は280億円)。

この補償額は、ダム建設事業費4600億円には含まれていません。東電に対しては、代替地造成に伴って送水トンネル等の補強工事が必要として、合計約190億円の補償金がすでに支払われてきていますが、これは補強工事と工事中の減電補償のための費用です。

上記計算の約250億円は、ダム完成後の減電に対する補償ですから、全く別物です。新たな計上が必要になりますから、ダム事業費を再増額しなければならず、国民の負担額がさらに増えることとなります。この再増額によって、ダム完成までの年数は少なくとも1年間延びることは確実になりました。

国や都県はコスト縮減を進めると言っていますが、その縮減額は2004年度の実績で8500万円に過ぎず、減電補償のための増額分、約250億円と比べれば微々たるものです。

この減電補償は宮ヶ瀬ダムの例をみると、ダム完成直前に行われます。それまで、巨額の減電補償が必要だという事実を隠したまま、事業が進められることが予想されます。

# ハツ場ダム計画の第一報

## 新聞に見るハツ場ダムの歴史 ①

7月はじめ、フジテレビ  
 川原湯温泉を「まごまご賞」で  
 川原湯温泉を「まごまご賞」で  
 川原湯温泉を「まごまご賞」で  
 川原湯温泉を「まごまご賞」で

ハツ場ダムが一番古い記事  
 借りたんですけど〜  
 昭和27年の  
 記事ですか？  
 エ  
 そんなに古い  
 ダムですか???

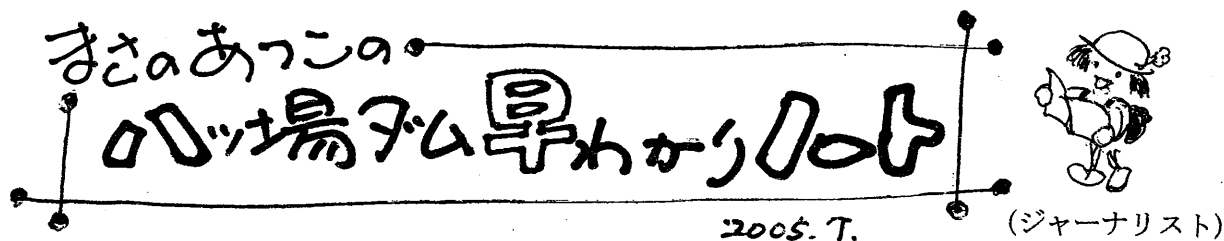
…というわけで  
 群馬県立図書館のマイクロフィルムから、  
 昔の記事をコピーしてみました。

群馬版  
 (毎日新聞群馬版  
 昭和27年  
 6月29日)  
 吾妻峡谷のダム築造決る  
 工費22億で天然岩利用  
 洪水を防ぎ発電力も増強

「吾妻峡谷のダム築造決る―工費22億で天然岩利用  
 洪水を防ぎ発電力も増強」  
 利根川の支流吾妻川の吾妻峡谷 川原湯附近八場  
 地内に天然岩盤を利用して一大ダムを築き、増水を  
 調節する案は、建設省で調査中のところ、来年度予算で  
 着手することに27日総合開発協会事務局へ県を通じて  
 内示があった。  
 これによると候補地にあげられた沢田村山田地先の  
 山田川、長野原町広池地先須川は地質調査の結果、  
 川原湯附近吾妻峡谷の岩盤は最も固く、川幅もわずかに  
 5メートルから10メートルで、天然岩盤がそのまま利用でき、水圧も  
 耐え得て九百立方メートルの水をたたえることが可能となった。  
 総工費は22億円で、このダムが果たす役割は洪水を  
 いったんここで食止め、下流五県の水害を防ぎ、湛水は  
 冬季渇水期に徐々に放出して下流発電所の出力を増加させる  
 ことにある。また公共事業の実施で地方失業者も救われ、  
 観光方面からも名勝地がふえ、ボートを浮べたり、観光  
 ホテルも建ち、国立公園地帯に強みを加えるなどが数えられ、  
 地元では早急に実現を期待している。  
 清水地方事務所長談 吾妻川は川底が深いからダムのために  
 沈む耕地とか部落というものはないと思う。総合開発協会と  
 しても極力協力したい。地元の負担もあるでしょうが下流  
 五県の協力もあるはずだ。

この年4月末、日本はサンフランシスコにおいて連合国と講和条約を結び、ようやく主権を回復しています。群馬版のお正月記事には、「発電群馬へ一大飛躍」のタイトルで、「利根水系の源泉を抱く群馬の山々の迎春賦は夥しい水力タービンの震動で明けて行く」の文も。「国破れて山河あり」と、国民あげて敗戦国から立ち直ろうと必死だった様子が、記事の行間から伝わってくるようです。

当初、建設目的の目玉だった「発電」は姿を消し、半世紀の間に、総工費、ダムサイト予定地、貯水容量は変更されてゆきます。地元では、千人以上の水没住民を想定したダム計画であることが明らかとなり、最初の反対運動が始まります。(つづく)



### 1. ダラダラといつの間にか始まるダム計画—住民との合意形成なし

1947年 (昭和22年) カスリン台風

1949年 利根川上流ダム群計画

1952年 ダム調査通知が群馬県長野原町に。以後1992年まで半世紀にわたるダム闘争

2005年 (事業進捗4割) 完成予定は2010年→2020年に? (首都圏人口は2015年から減少)

### 2. 治水計画 1/200年 —破綻

基本高水 (ダムなどが無い場合に流れる洪水の流量) 22,000トン想定 (1947年)

治水計画 (16,000トンを河川改修・利根川放水路) + (6,000トンを上流ダム群)

しかし

— 戦前からの「利根川放水路」=計画は影も形もなし (=土地利用上不可能)

— 計画 6,000トン - 1600トン (既設 6ダムとハツ場ダム) = あと 4,400トンは?

.....単純計算であと12の上流ダム群が必要=不可能、非現実的

実は

— 過大すぎる想定 『ハツ場ダムは止まるか』P.32 グラフ★ 必見

— 既往最大は17000トンなので「何もしない」選択肢がありえるが、議論されない

.....河川法に基づく河川整備基本方針の欠点、常識論の入り込む余地なし

.....国交省と社会資本整備審議会の密室で決まる

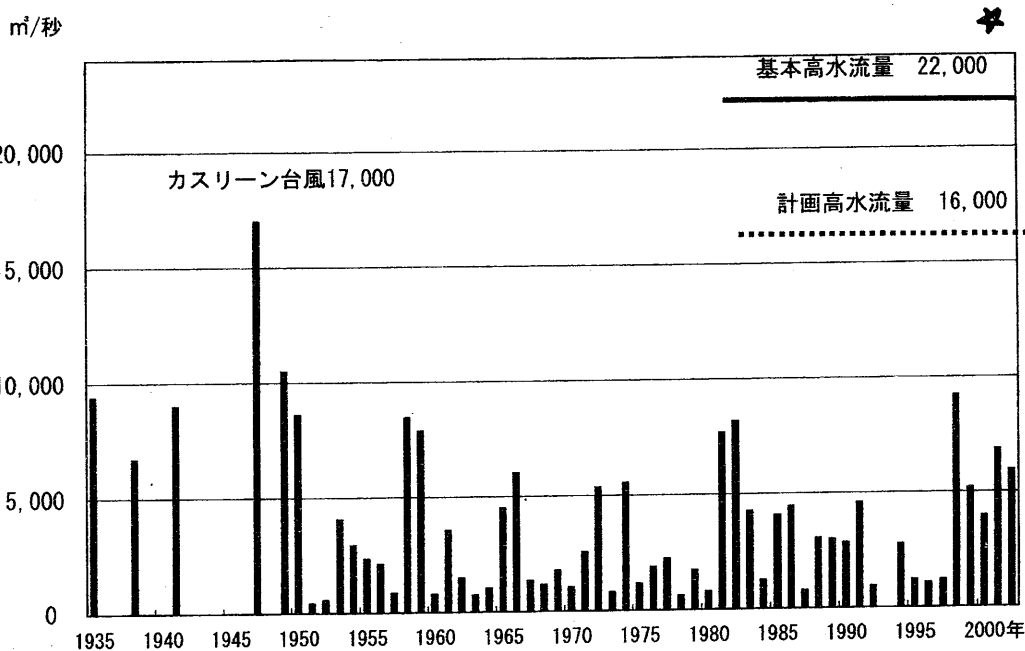


図9 利根川・ハツ場地点の年最大流量の推移

### 3. 利水計画 - ムダに

背景：水資源開発促進法（昭和 36 年：「産業の開発又は発展及び都市人口の増加に伴い用水を必要とする地域に対する水の供給を確保」が目的）に基づき、7水系（利根川、荒川、豊川、木曾川、淀川、吉野川、筑後川）に水資源開発計画(フルプラン)=右肩上がりの経済成長が前提

しかし

現実：東京は 75 年、6 都県は 90 年に水需要頭打ち、減少『八ツ場ダムは止まるか』P.25 グラフ

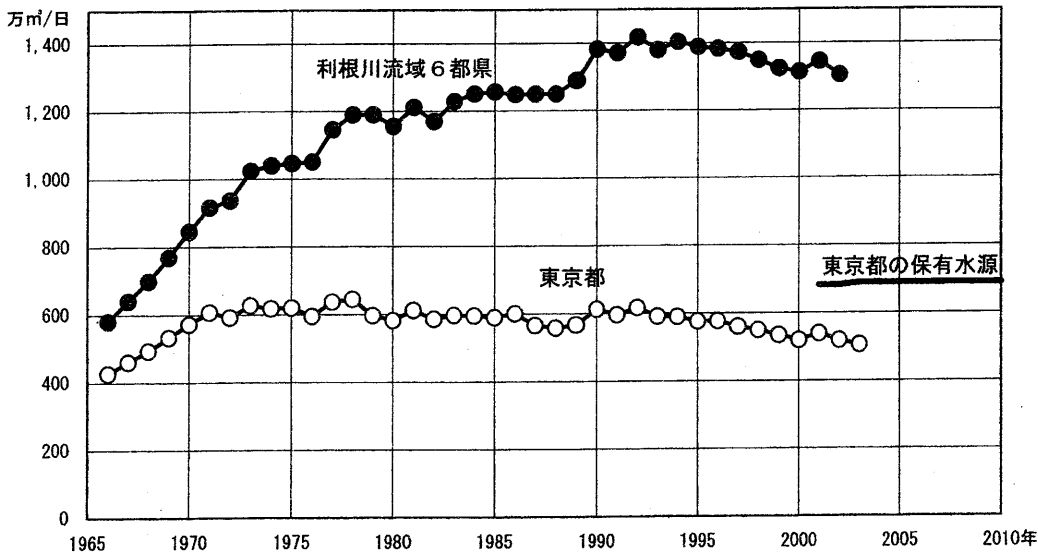
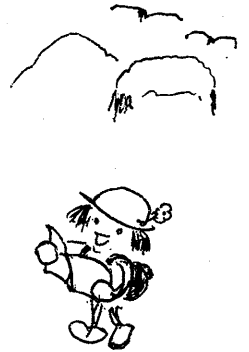


図 4 上水道の一日最大給水量の推移



### 4. 環境 - 河川法改正(97年、治水、利水に環境加わる)、環境影響評価法制定(97年)以前の計画

#### 5. 一日60トンの石灰を必要とするダム - 尋常ではない

上流に草津温泉（強酸性 ph 2 ~ 3）

中和工場で毎日石灰 60 トンを溶かし込み、品木ダムに沈殿させて、ph を 5.5 に  
未来永劫、ダムがある限り続けなければ、ダムのコンクリート壁は融けてしまう。

#### 6. その他のリスク

地すべり - 貯水によって誘発される もともと地すべり多発地帯

ダムサイト - 熱水変質、断層、岩盤に節理「ダムの基礎地盤としてきわめて不安定」

（1970年 国会答弁）

浅間山、草津白根山（24時間監視体制）噴火の危険 - 満水時、決壊の可能性

#### 7. 政治背景 - なぜ、無理して計画が進められたか？

ダム闘争期：福田派 VS 中曽根の“上州戦争”（旧群馬3区）、首相を3人輩出

福田赳夫（推進）、中曽根康弘（様子見→推進）、小淵恵三（ビルの谷間のラーメン屋）

96年小選挙区で、福田康夫（群馬4区）と小淵優子（群馬5区）の選挙区へ



## 8. 事業費 — 総額 2110 億円→4600 億円に(04 年度増額)

関連事業も含めると、5,850 億円。起債の利息も入れると、国民負担は 8800 億円  
各都県別負担 (『ハツ場ダムは止まるか』P.20)

表2 ハツ場ダム建設事業及び関連事業の負担額のまとめ

	ハツ場ダム建設 事業(億円)	水源地域対策 特別措置法の 事業(億円)	水源地域対策 基金事業(億円)	3事業の 合計負担額 (億円)	起債の利息を 含めた合計負 担額(億円)	人口 (万人)	一人当 り負担額 (万円)
群馬県	176	42	18	236	354	203	1.7
埼玉県	569	143	92	803	1,205	694	1.7
東京都	634	131	84	848	1,272	1,206	1.1
千葉県	404	61	39	505	757	593	1.3
茨城県	219	26	17	263	394	299	1.3
栃木県	9			9	14	201	0.1
国費	2,589	504		3,093	4,640		
地元および受益者負担金		90		90	135		
合計	4,600	997	249	5,846	8,769		

## 7. 住民訴訟 — 現在、第3～第4ラウンド

04年9月10日 1都5県(千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬)に住民監査請求(5391人)

→却下、棄却 11月に各地裁に一斉提訴。違法支出だとして返還を求める訴訟

- 1) 水道事業管理者(水道局や企業庁長)の利水負担金
- 2) 知事の負担金: 治水負担金と水道事業特別会計への繰出金
- 3) 知事と水道事業管理者は過去1年分の違法支出
- 4) 水道事業管理者はハツ場ダムの使用权設定申請を取下げたハツ場ダム事業から撤退

### \* 司法による行政チェックの問題点

計画段階での提訴が不可能、提訴しても事業は止まらない、自治体は住民監査請求・住民訴訟を起こせるが国に対してはできないなど、事実上不可能 — 行政手続法、行政事件訴訟法の改正が必要

## 9. ハツ場ダムと日本のダム事業

水源地域対策特別措置法 73年成立

- 群馬県知事がハツ場ダムの地元対策として提案
- 水源地域整備計画、生活再建のための措置を定める

中止ダム事業の数 2004年までに94事業が中止

- 1997年3事業、1999年4事業、2001年32事業、2002年3事業、2003年12事業、2004年6事業(計64事業) + 生活貯水池(総貯水容量100万m<sup>3</sup>未満)

今なにが必要か?

- ダムが止まった場合のルール作り 水没予定地の地域再建  
ダム計画で破壊された予定地住民の生活再建

## 10. 半世紀経過した「ハツ場ダム」事業は即刻中止すべき



## 神田・駿河台 文化学院で出前講座

「もしも、文化学院の教師をしている菊池ですが」

今年1月、八ッ場ダムを考える会事務局に、見知らぬ方からお電話が……。東京の文化学院で、八ッ場ダム問題をテーマに90分授業を、という依頼でした。

文化学院は、川原湯温泉ゆかりの与謝野鉄幹・晶子夫妻が、1921年、大正デモクラシーの風を受けて創立に関わった、ユニークな学園です。戦争中、校長が不敬罪で拘束され、自由の園は強制閉鎖、校舎は陸軍に接收の憂き目を見ます。しかし、アメリカ人捕虜が収用され、米軍向けのラジオ局が設置されたことで空襲を回避。蔦のからまる校舎は、ビルが立ち並ぶ神田・駿河台にあって、戦後60年経た今も、往時の気品を漂わせ、映画『学校』（山田洋二監督）のモデルともなりました。

2月、菊池先生と第一回の打ち合わせ。3月の授業を予定しましたが、校舎のボヤ騒ぎで延期。生徒に相反する意見を聞き比べてもらいたい、という先生の考えで、国交省河川課による授業が行われた後、5月23日、視聴覚教材を駆使した第一回の出前講座を行いました。

講師：渡辺誠さん(デザイナー)、深澤さん(東京の会)、渡辺(事務局)。

### 授業後のアンケート結果

【八ッ場ダムという言葉を知っていましたか？】

知っていた・・・5人      知らなかった・・・33人

【脱ダムについて、聞いたことがありますか？】

聞いたことがある・・・22人      聞いたことがない・・・16人

【八ッ場ダムの建設は必要だと思いませんか？】

必要・・・4人      必要でない・・・15人      わからない・・・19人

【家では、飲み水として水道水を使っていますか？】

水道水そのまま・・・7人      浄水器・・・14人      ペットボトル水など・・・11人  
浄水器、ペットボトル併用・・・4人      その他・・・2人

### 授業の感想 (抜粋)

▲必要と答えた人▲



- (国交省が) カスリーン台風のような大きな災害も想定して造ると言っていたので、防げると信じて書きました。しかし、僕の祖父母が赤城に住んでいるのですが、近所の人たちとのつながりがとても強いので、地元の人の気持ちになると複雑に思いました。

▲わからないと答えた人▲



- もう何年も計画されたまま造られていないのなら、必要ないともいえる。けれど、「備えあれば、憂いなし」という言葉も。だから、とても難しい。でも、東京にいて、幸せに住んでいる私達にとってはとても遠い話。水に困ったこともないし、家が沈むなんて考えたこともない。だから、やっぱりよくわからないんだと思う。でも、みんな自分の考えだ

け頑固にとらわれないで、ガキンとかせずに、しっかり話し合っ、本当にどうすることが皆の為になるのか考えることができたらいと思。

- **ダ**ムの話は初めてだったので一概には言えないけれど、税金、労力のムダづかいは色々なところにあると思。ヘルシーで循環のよい世の中となる日が来ることを願っている。
- **ダ**ムが必要か必要でないのか、よく知らなかったけれど、この授業で少しわかった。ダムがないと、私たちは生きてゆけないのかもと思るところがあったけれど、水が今あるのだとすれば、ダム計画は本当にムダなことだと思。人が快適に住んでいる所をワザワザ人工的に壊すなんて・・・自然のままでもいいと思わないのかと思。

▲必要ないと答えた人▲



- **ハ**ッ場ダムのことを知り、今さら建設することはないのではないかと思。今と1952年とは状況がちがっている。それなのに、「今さら」という感じだ。
- **ど**ういう理由があっても、あの美しい景色をつぶし、住民を犠牲にすることは哀しい。
- **文**章と写真がとても充実して、一文ごと、一枚ごとの説明もわかり易く頭の中に入ってきた。授業を聞いて、私はダムは必要ないと思。ダムのデメリットの方が多く感じたからである。メリットの方は、聞いていて結構難しい話が多く、デメリットの方は水没地域を生んでしまうなど、とても身近に感じる。私もこれからダムについて調べたい。
- **ま**れいな風景を壊してまでダムを造らなければならない国に、大人の汚さを感じた。みんな自分のことばかり感じているようで、悲しくなった。
- **今**まで、名前だけでよくわかっていませんでした。色々なダムに関する情報を知ることができました。遠くのことだと思っばかりだった今までの見方が変わりました。
- **一**体、誰の為、何の為にダムが造られるのか……。一つのダムで、多くの人住居を失う。懐かしい思い出も水の底。私実感しないのは、ダムを造る人が深く考えていないからだと思。悲しいだけで終わってしまうのであれば、ダムはいらない。
- **壺**かな自然と美しい風が印象的だった。
- **ダ**ムが無駄なんだろうなというのは、ニュースなどでほんの少し知っていました。でも、本当に市民には利益がないという事が今回の話で実感できました。この活動をずっと続けて下さい。言葉も、政治家のようにむずかしくなく伝えようという意思があっわかりやすかったです。それは、人を動かしていく活動ではとても重要な事だと思。TVなどではつまらなくてチャンネルをかえてしまう話題かもしれません。ですが、同じ島に住んでいる人が困っているという視点からみれば、途端に関心がもてる話になると思。吾妻溪谷が水没してしまうのは、日本の国土や季節や歴史の証拠を失うことになり。とても勿体ないです。

## お薦め図書 — 『犬と鬼』

## 【海外から初メール♪】

ニュージーランドのジャーナリストから「八ッ場ダムを考える会のホームページを見ました！」というメールが届きました。

「・・・今はニュージーランドに住んでいますが、23年間日本に住んだ経験があります。ちょうど今、書き終わらせようとしている本のため、インターネットで日本のダムのことを調べたところ、八ッ場ダムを考える会のウェブサイトを見つけて、非常に深い印象を受けました。情報提供と、それに全体的なプレゼンテーションの面で、素晴らしいウェブサイトだと思います。ブルース・ロスコー」(注:原文はローマ字。)

## 【ダムは鬼?!】

ロスコーさんが、「八ッ場ダム問題に関心をもつ皆さんに是非、読んでほしい」と薦めてくれたのが、米国のアレックス・カーが日本の土木事業の実態を正面から取り上げた書として話題の『犬と鬼』(講談社・2002年刊)。脱工業化社会へ向けて、直面する諸問題の基本的な解決は、地味な作業(犬)だけに難しい。ところが派手なモニュメント(鬼)にお金をつぎ込むのは簡単—タイトルは中国の故事に由来するそうです。

「60年代に発する建設マネーの大波は山村をも呑み込み、他の産業はあとかたもなく押し流された。今では、山村の人々はそろって建設作業員になっている」

1960年代の思考回路のまま、ターミネーターロボットよろしく、ブレーキの利かない官僚システムが推進する八ッ場ダム事業は、まさに筆者が批判する“派手なモニュメント”そのものです。

## 【問題の根っこは心の中に】

産業構造の転換がうまくいかない理由を、筆者は洋才(=近代科学技術)と和魂(日本人の民族性)との結びつきに求めます。完璧主義(欧米人には当然と思えるラフ感覚の欠如)、平穏を好む気風(ゆでガエル症候群)、全体より部分に関心が向く性癖(“木を見て森を見ず”)などが災いしているというのです。

敵が外ではなく内に潜んでいるのだとすれば、それを克服する途は、学校教育によって矯正された「和魂」に押さえ込まれた当たり前の人間らしさを取り戻すことから始めるしかないのかもしれませんが。故郷の山河を鉄とコンクリートで埋め立て、文化衰亡の元凶を作りながら、一方で、戦前の教育を復活させれば国の衰退は防げると説く、そんな政治家が大手をふっている限り、過去の亡霊のようなダム事業は、のた打ち回りつつ生き延びるでしょう。外国人の視点を提供してもらうことで、意外な盲点が見えてくる、そんな意味で、お薦めの一冊です。(清沢)



K.Y.

ロスコーさんにほめていただいたホームページ! じつはフォロの若い女性ボランティアさんつくったものなのですよ。 謝々。



H.N.

# 嶋津暉之さん. 田尻賞受賞!

7月10日、「公害Gメン」として活躍した故田尻宗昭さんを記念して設立された田尻賞の授賞式が東京、四谷・主婦会館で開催され、嶋津暉之さんが、第14回受賞者として表彰されました。

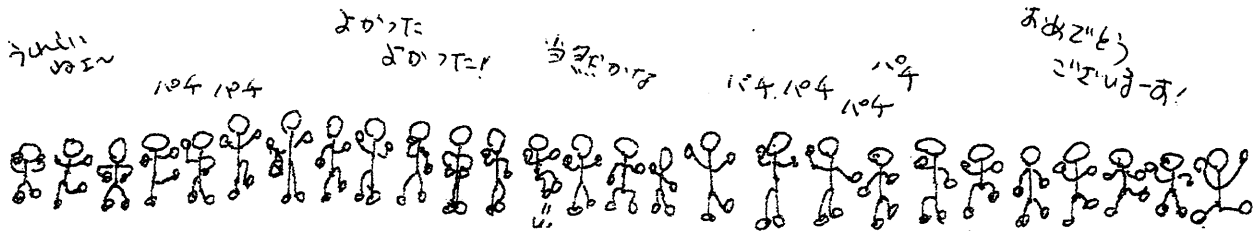
嶋津さんと八ッ場ダム計画との出会いは、1960年代後半。水没予定地住民の苦悩を目の当たりにし、山村を犠牲にするダム計画に疑問を抱いたことがきっかけでした。その後、東京都に就職し、工業用水の節水技術を指導。1973年から81年にかけて、工業用水の大幅カットに成功します。それでも止まらないダム計画の現実から、行政の水需要予測が、ダム計画のために作られる欺瞞に満ちたものであることに気づきます。研究業績を提供することで市民運動を支援する嶋津さんの半生が、ここからスタートしました。

授賞式では、かつて東京大学で嶋津さんの恩師であった宇井純氏が、「どれだけ水源開発をしても、あればあるだけ使ってしまう都市用水の実態を証明した嶋津さんのマスター論文を見て、研究室で二人で頭を抱えたのが昨日のここのよう」と思い出話を披露。「水俣病発生から50年。原爆の被害者救済からはじまり、戦後この国は、被害者の救済問題を解決できずに今に至っている。その中で、嶋津さんの研究は、マスター論文であっても、社会の方向を変える可能性があることを示唆しており、大いに私達を勇気づける」と語りました。

受賞  
ほんとうに  
おめでとう  
ござります!

おめでとう  
ござります

えー、困ったよー  
これは、私個人なという  
よりも、  
月夜ダムの運動全体に  
対しての評価だと  
思うんですけどね。  
ですから、  
ここからの運動の力かみに  
なれば、嬉しいですよー。



## ★地下水学習会 in 群馬県(庁舎)★

首都圏の水源地として、豊かな水資源を誇ってきた群馬県。平野部の前橋、伊勢崎、玉村などは、利根川の扇状地にあって、地下水に恵まれた都市として発展してきました。これらの都市の水道用水は、今、地下水枯渇、地下水汚染や地盤沈下などを理由に、地下水から表流水への転換をなし崩し的に進められつつあります。前橋や高崎の地下水データを基に、地下水の現況を専門家に検証していただき、身近な自己水源、地下水の保全と利用の重要性を考えます。

\*学習会「地下水こそ生活用水源に！ー前橋・高崎の地下水ー」

日時：2005年9月19日（敬老の日） 午後1時半～

場所：群馬県昭和庁舎2F 26号室

講師：和田信彦（地質環境コンサルタント、技術士）

ハッ場ダムを考える会、ハッ場ダムをストップさせる群馬の会共催

## ★総会記念講演会★

ハッ場ダムを考える会の秋の総会は、11月23日（祝）に開催します。今回は記念講演の講師に川村晃生さん（慶応大学文学部教授）をお招きします。環境人文学という新しい学問分野を構想中の川村先生は、もともと和歌を中心に研究してこられた国文学者。18年前、故郷の山梨県に居を移し、自然風土が破壊されてゆく実態を目の当たりにしたことが転機となり、現在は、市民運動にも積極的に関わっておられます。

ハッ場ダム予定地は、若山牧水、与謝野晶子ら、多くの文人を魅了してきた吾妻溪谷。ダム事業の負の側面は、今まで主に科学的な視点から解明されてきましたが、人文学の分野での検証は、問題の本質をさらに深く認識するのに大いに役立つことでしょう。

### 【訴訟スケジュール】

#### \*第三回裁判

千葉	8月26日	午前11時	千葉地裁
----	-------	-------	------

#### \*第四回裁判

埼玉	9月7日	午後1時半	さいたま地裁
栃木	9月8日	午前10時	宇都宮地裁
群馬	9月16日	午後1時	前橋地裁
宇都宮	9月21日	午後1時15分	宇都宮地裁
茨城	10月4日	午後1時半	水戸地裁
東京	10月5日	午前11時	東京地裁

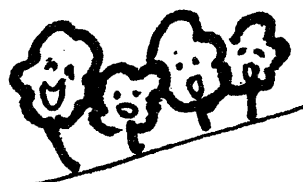




# 秋の現地イベント 日程決定!!

好評の現地イベント、この秋は吾妻溪谷が紅葉真っ盛りの11月5～6日に行います。1日目は、嶋津暉之さんによる現地案内。2日目は、散策、ミニコンサートなど、今回も盛り沢山のプログラム。詳細は10月発行予定の次号でお知らせしますが、川原湯温泉が最も込み合う時期ですので、宿泊ご希望の方は、各地の連絡先(↓参照)に早めのご連絡を!

11月5～6日は  
今からあけて文



待つ  
ま〜す

## 暮しの手帖 17. 2005年夏号に

「遅すぎることはありません  
ハッ場ダムも考える」

という記事が素晴らしい早真入りに、  
アホージにわたり載っています

すぐ書店に行っ

せびご-言売を。

【各地の連絡先】

★ハッ場ダムを考える会



★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会



★ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会



★ハッ場ダムをストップさせる東京の会

★ハッ場ダムをストップさせる千葉の会

★ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

★ハッ場ダムをストップさせる群馬の会

★ハッ場ダムをストップさせる茨城の会

★ムダなダムをストップさせる栃木の会

★ハッ場ダムを考える千葉の会

★ハッ場ダムを考える市民の会おおた



# ダムに沈む村

ダムに沈む村の  
田んぼはひからびて  
ガマの穂は破裂し  
畑は草が生い茂って枯れ  
荒れはててせつない

ダムに沈む村の  
石仏は柔和  
お墓は無表情に  
西を向いて  
高台から  
村を見守っている

ダムに沈む村は  
誰もいない  
太った野良猫が一匹  
日向ほっこをしている  
空っぽの電車が通り過ぎ  
国道は大型ダンプカーが  
忙しく行き交う

私の生まれた  
ダムに沈む村は  
美しい溪谷と  
ひなびた小さな温泉場  
六月になると仏法僧は囁き  
山には大好きな山野草が  
咲きみだれる

ダムに沈む村の家は  
今日は一軒  
明日は二軒と  
解体されて  
基礎石だけが  
無言で  
すべてを物語っている

ダムに沈む村の夜は  
真っ暗闇  
昨日までここに住んでいた  
人々がまぼろしとなつては  
消える

あとには  
月の光と  
星の輝きの中に  
夜を迎える

ダムに沈む村でも  
夜は豊しく  
美しい

詩集「ダムに沈む村」

・豊田政子・より

ハッ場ダムは現在の計画では、2010年完成の予定です。

けれども本体工事はまだ始まっていません。

次の世代の“いのち”のために、ハッ場ダム計画を見直しましょう。

編集：ハッ場ダムを考える会

【URL】 <http://www.yamba-net.org> 【E-mail】 [info@yamba-net.org](mailto:info@yamba-net.org)